

時報部

福島県外にも産地拡大

基準値を超える放射性セシウムが検出された食品の出荷制限地域が広がっている。昨年は福島県だけで制限された食品も東北や関東各地などに拡大。原発事故から一年八カ月もたつて、なぜなのか。

(中山洋子)

「これほど多くの食品 原告団の木村結さんは、が汚染されているなん 十一月十五日付で国が福島県に出した出荷制限指

食品の主な出荷制限(11月30日現在)

野生キノコ類

- 青森(3市町)
- 岩手(8市町)
- 宮城(2市)
- 福島(48市町村)
- 栃木(11市町)
- 群馬(7市町村)
- 埼玉(4町)
- 山梨(3市町村)
- 長野(5市町村)
- 静岡(2市町)

茶

- 茨城(27市町村)
- 栃木(2市)
- 群馬(1市)
- 千葉(1市)

原木シイタケ

- 岩手(14市町)
- 宮城(21市町村)
- 福島(17市町村)
- 茨城(11市町)
- 栃木(21市町)
- 千葉(10市)

タケノコ

- 岩手(2市)
- 宮城(3市町)
- 福島(16市町村)
- 茨城(14市町村)
- 栃木(5市町)
- 千葉(9市町)

ソバ

- 岩手(3市の一部地域)
- 宮城(1市の一部地域)

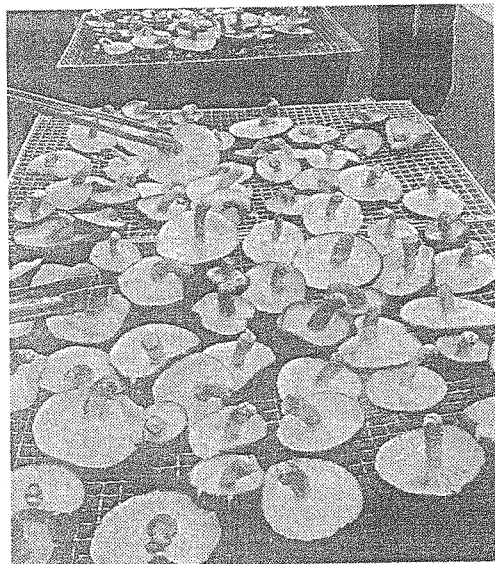
天然イワナ

- 岩手(磐井川など)
- 宮城(一迫川上流など)
- 福島(秋元湖など)
- 栃木(渡良瀬川の一部区間)
- 群馬(吾妻川の一部区間など)

イノシシの肉

- 宮城 群馬 茨城
- 栃木 千葉

食品出荷制限増なぜ今



「きのこ祭」で販売された焼きシイタケ。国の基準より厳しい値をクリアしている。11月、静岡県伊豆市で

示の文書を見て驚いた。と厳しくなった。厚生労働省は当初から、県別にされたカブやウメなどの四十一品目で、出荷制限の対象となる市町村がずらりと並んでいた。

基準値を超えた食品は、原子力災害対策特別措置法に基づき、首相が出荷制限を指示する。基準値は今年四月、一キログラムあたり五〇〇ベクレルから一〇〇ベクレルへ「『安全』を強調する情

「隠さず対策を」 詳細検査で把握

報が独り歩きして、実態がどんどん分からなくなっている。マスコミは積極的に知らせしてほしい」と注文する。

実際には、品目ではない。シイタケ栽培用の原木も、放射能の影響が少広がっている。野生キノコや原木シイタケ、山め、廃業に追い込まれた菜、天然ヤマメなどは、昨年からの福島県内の各地で検出されていたが、今年に入って、ほかの県の市町村でも検出されるようになった。特に野生キノコから高い濃度が検出されるケースが増えている。出荷制限は十一月三十日現在で、福島を除くと十二県の一〜二十品目に及ぶ。

厚生労働省の担当者は「昨年は混乱の中、手当たり次第に調べたが、実際には手が回っていない食品も多かった。今年、過去の経験から検出されることの多い食品を集中的に調べた。四月から基準値が厳しくなった影響もある」と説明する。

群馬県高崎市の高崎市

「隠すことこそが、風評被害を広げる。放射性物質が出やすいもの、出にくいものの傾向も分かってくる。きちんと調べて正しい情報を示し、対策をとるしかない」

11月の追跡